

●昨年度のプランの検証

- ①行事と関連させた授業を計画し、実践することができた。
- ②表現においては自分の思いや意図をどのように表現に活かしていきたいかを言葉で表現させることができた。
- ③鑑賞においてはプリントを活用し、自分が感じ取ったことを自分の言葉で表現させることができた。

●課題（各観点について）

観 点	分 析
関心・意欲・態度	音楽に対して興味・関心を寄せている生徒が多く、のびのびと表現ができる生徒が多い。しかし、受け身傾向である。そのため、スモールステップの課題をあたえながら、成功体験を積み上げていく必要がある。
音楽的な感受や表現の工夫	音楽的な感受については概ね達成できているが、感受したこと表現に生かすための基礎知識（楽典）が不足している。今後、音楽的基礎知識を身につけさせることが課題である。
表現の技能	歌唱表現は、意欲的に参加することができる。伴奏で雰囲気づくりをするだけで歌に集中することもできる。その反面、自分流の歌い方が見られるためフレーズごとに手本を見せながら模倣するといった方法にするなど工夫が必要である。
鑑賞の能力	あらゆる時代の音楽を知るといったことをねらいとし、作曲者や時代背景、音楽史といった知識が不足している。

●観点ごとの課題に基づいた授業改善のポイント

【関心・意欲・態度】	・自分から表現や努力した時には、ほめる。楽しかったと思えるような授業を展開する。
【音楽的な感受や表現の工夫】	・自由に表現をしていいことを伝えながら、基礎的な知識をスモールステップで学び、小テストなどで確認させながら進める。
【表現の技能】	・学ぶべき表現や感動するような表現が見られた時には、互いを認め、高めあう場の設定をする。
【鑑賞の能力】	・基本的な姿勢や発声方法をしっかりと身に付けさせる。
	・いろいろな声があり、出し方があることを伝え手本、模倣、実践という方法をとる。
	・よりわかりやすい授業を目指し、視覚支援をつかった授業と五感を使った授業を展開する。資料の充実を図る。小テストなど実施し、復習をさせる。

●授業改善策

【1 学年】	・毎時間今日のねらいやポイントを明確にし、記録をさせる。
	・音楽的基礎知識を学びつつ、表現を言葉にする際に学んだ言葉を使うように促す。
	・フレーズごとに実技の評価をする。手本、模倣、評価といった形式。
	・鑑賞の授業はおもにパワーポイントを使った授業を展開する。
【2 学年】	・毎時間今日のねらいやポイントを明確し記録させる。
	・音楽的基礎知識を学びつつ、表現を言葉にする際に使うように促し確認させる。
	・フレーズごとに実技の評価をする。自主的な気づきがあるような助言や促しをする。手本、模倣、評価といった形式。
	・鑑賞の授業はおもにパワーポイントを使った授業やディスカッション形式に展開する。
【3 学年】	・毎時間今日のねらいやポイントを明確し記録させる。
	・音楽的基礎知識を学び、その知識を活かし言葉で表現するように促す。
	・短いフレーズによる手本、模倣の実践から、長いフレーズやハーモニーを評価する。
	・鑑賞の授業はおもにパワーポイントを使った授業やディスカッション形式に展開する。